

SIT+KU+AIT gPBL: 自然災害に対する地圏の防災・減災技術に関するワークショップ

実施期間	実施国	共同実施機関	対象	参加者	本学担当教員
2024年08月27日 ~2024年09月04日	タイ	カセサート大学 アジア工科大学 スラナリー工科大学	・土木工学科、 都市・環境コース、 社会基盤学専攻、 環境システム学科、 建築学科 ・学部1~4年生、 修士1~3年生	(芝浦工業大学) 学生32名、 学生バイト5名、教員1名 (カセサート大学) 学生80名、 教員6名、職員4名 (アジア工科大学) 学生8名、 教員2名、職員2名 (スラナリー工科大学) 学生8名、教員1名	稲積 真徳 (土木工学課程都市・環境 コース)



スワンナプーム国際空港での集合写真

カセサート大学バンコクキャンパス(メインキャンパス)、カセサート大学シラチャキャンパス、およびパタヤ(チョンブリー)において、「The Role of Civil Engineers in Applying AI for Sustainable Climate Change Mitigation(持続可能な気候変動緩和のためのAI活用における土木技術者の役割)」というテーマでグローバルPBLを実施した。

このグローバルPBLには、本学(SIT)から土木工学科を中心に37名、さらにカセサート大学から60名、スラナリー工科大学から8名、アジア工科大学から9名の計114名の土木系学生が参加した。グローバルPBLの期間中には、午前中には特別講演やデモンストレーションなどの全体イベントが行われ、午後には8つのグループに分かれて、キャンパス内外でテーマに沿った活動が行われた。また、期間中にはパタヤ(チョンブリー)への遠征(2泊3日)も行われ、GISTDA, Geo-informatics and Space Technology Development Agencyのタイ国全地球航法衛星システムの整備施設を視察した。

グループ活動では、「The Role of Civil Engineers in Applying AI for Sustainable Climate Change Mitigation(持続可能な気候変動緩和のためのAI活用における土木技術者の役割)」について、各グループ内で共有や議論が行われた。最終発表会では、SIT、KU、SUTおよびAITの学生が協力して取り組んだ成果が示され、持続可能な未来を築くために土木工学が果たすべき役割が明確になった。

全体イベントでは、タイと日本の両国で有名な地盤工学者であるカセサート大学のDr. Apiniti Jotisankasara, “Innovations for Low Carbon Geotechnology”に関する特別講演があった。また、タイ三信建設工業株式会社の協力により、熱帯雨林環境下での地盤改良工法に関する講演やデモンストレーションも行われた。



オープニングセレモニーにおける稲積教授の挨拶



デモンストレーションに参加している学生の様子



GISTDAの施設見学での学生の様子



現場見学の様子



グループ活動の様子



採択発表会の様子